

令和 8 年度 岡山県 英語教育改善プラン

目標

「自立した英語学習者」になるために、生徒自身が具体的な目標や学習計画を立て、目標達成に向けて学びを自己調整できるよう支援するとともに、個に応じた学習過程の充実を図る。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R7: 51.3% → R8: 60%)

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☐ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☒ AIの活用
 ☐ その他 (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①学期に 1 回以上、パフォーマンス評価を行う学校の割合が増加

岡山県 (岡山市を除く。)	R6	R7
	89.5%	93.0%

- ②予習・復習の両方で学習者用デジタル教科書を活用する生徒の割合が増加

岡山県 (岡山市を除く。)	R6	R7
	50.4%	54.4%

学習指導・生徒指導等の取組状況調査 (県独自)

- ①英語担当教員が、英語学習における生徒の内省を促し、生徒が自らの学びを振り返り、次の学びに生かす機会とサイクルを確立する必要がある。

岡山県	小6	中3
R7	78.1%	72.7%

令和 7 年度全国学力学習状況調査
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている児童生徒の割合

2. 要因分析

- ①パフォーマンス課題を設定することで各単位時間の言語活動に意味を持たせた。また、言語活動を充実させるための手立てとして、右記(二次元コード)の活用を働き掛けた。



- ②生徒は「学習計画表」や「振り返りシート」を用いて、授業だけでなく家庭学習でも学習者用デジタル教科書を活用する機会が増えた。



- ①生徒が定期的に自らの英語力と課題を客観的に把握し、具体的な目標や学習計画を立て、目標達成に向けた学びを自己調整できる手立てが十分に行われていない。

また、英語学習において、AIや翻訳ツールを「正しい言い方(答え)」を教えてもらうために使うことが多く、目的や場面に応じて生徒が自分で適切な表現を試行錯誤しながら考える機会が減少していると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

●岡山県中学生英語力向上事業

県内の中学 3 年生を対象に英検 I B A の受験機会を提供することにより、生徒自身が目標としたい受験級を設定し、その目標に向けて学習計画を立て、自己調整をしながら学習を進めることで自立した英語学習者の育成を図る。

●次世代英語コミュニケーション力向上事業

AI を活用したクラウド型英語学習教材を導入し、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の 4 技能を関連付けながら、生徒が自らの学習状況を把握し、目的や課題に応じて主体的に学習を調整しながら英語力を高めることができるようにする。



令和 8 年度 岡山県 英語教育改善プラン

生徒の英語運用力強化のための教員の英語指導力を向上させるとともに、授業改善を進めることにより、生徒の英語力の向上を図る。

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R7 : A2以上 52.4%、B1以上 24.2% ⇒R8 : A2以上 60%、B1以上 27%)

目標

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☒ 校種間連携 ☒ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①英語担当教員の英語力
※CEFR B2レベル相当以上を取得している英語担当教員の割合

R6	R7
90.9%	92.3%

②英語担当教員の英語使用状況
※教員が発話の半分以上を英語で行っている学校の割合

R6	R7
68.8%	68.6%

①生徒の英語力
※CEFR A2レベル相当以上を達成した生徒の割合

R6	R7
53.3%	52.4%

2. 要因分析

①研修協力校による実践的な研修や公開授業等を行い、生徒の実態に応じて4技能を重視した活動を重視した授業改善を進めたことにより、学校全体や個人的な自己研鑽の取組につながり、生徒や英語担当教師の英語力の割合が増加した。
②数値自体は微減しているものの、実際のコミュニケーションの場としての英語授業を公開授業等でモデル提示したことにより、引き続き高い水準を維持している。

① A2レベルの生徒割合が減少する一方で、B1レベルの生徒割合は増加している。
(R6:20.4%→R7:24.2%)。このように成績の二極化が進んでいる背景には、中間層のモチベーションを十分に高められなかったことがあると考えている。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②①以下の各事業を行うことで、教員の英語指導力向上を一体的に進め、生徒の発信力強化につなげる。

・AI英語教材のモデル校への導入

モデル校にA Iアプリを導入し、その効果的な活用についての研究を行い、生徒がA Iによるトレーニング等で培った発信力の強化を図る。また中学校と連携してAI英語ツールを活用し、校種を越えた指導法の共有や研修を推進する。

・英語教育推進リーダーの活用

県内の英語教育推進リーダーが本県の英語教育の現状及び改善について協議を行い、所属校での実践・公開授業・研究協議等を通じて、各校への普及を行い、個人的・組織的取組の改善を図る。

・指導教諭等による公開授業

県立学校に配置された指導教諭が授業を公開し、授業改善のモデルを示すことで、効果的な授業研究を推進する。

・外国語指導助手の指導力等の向上

A L Tを追加で配置し、またA L Tと英語担当教員で行う研修の内容をブラッシュアップし、より効果的な協働授業について研究し、公開授業やワークショップ等を通じて、実践発表を行う。

岡山県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)		57	51.9	60	53.3	60	52.4	60		60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)		20	20.1	22	20.4	25	24.2	27		30	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)		90	80.1	90	74.3	90		95		95	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合(%)		50	41.1	55	45.4	60		65		70	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	80	56.3	80		80		80		80	
		達成状況の把握(%)	80	76.1	90		90		95		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)		85	90.1	90	90.9	90	92.3	95		95	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合(%)		100	68.9	100	68.8	100	68.6	100		100	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)		56	49.3	60	51.6	60	51.3	60		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)		78	90.4	90		90		95		95	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合(%)		93	92.7	93		95		95		95	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	60	89.6	65		70		75		80	
		達成状況の把握(%)	80	94.8	85		90		95		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)		45	42.8	45	44.8	48	48.5	48		50	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合(%)		78	92.4	90		90		95		95	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	98.2	100		100		100		100	
		公表(%)	60	83.9	65		70		75		80	
		達成状況の把握(%)	80	92.1	85		90		95		100	